

図書館通信

最上校図書委員会

No.17 11月6日



11月図書館企画 作品特集

「2023年発表新刊図書展」

「読書の秋」ぜひ、最新刊を読んでみよう！

『糸暦』 小川糸著

絶品の山菜料理、りんごケーキ、手作り石けん、自分流の年越しなど。12ヶ月に沿って、季節を愛おしみ、旬を味わう暮らしを、等身大に綴る歳時記エッセイ。心ゆたかに暮らす知恵が詰まった1冊。

『マリエ』 千早茜著

「離婚って失敗なの？」「恋愛と結婚って別物？」

おとなの女性の結婚と幸福をめぐる物語。

『十戒』 夕木春央著

殺人犯を見つけてはならない。それが、わたしたちに課された戒律だった。犯人が下す神罰を恐れながら、十戒に従う3日間が始まった。

『球形の囁き』 長岡弘樹著

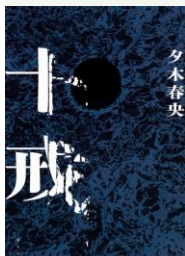
母娘の際立つ推理力が導き出した、難事件の真相とは？

『鏡の国』 西岡琢磨著

作家・室見響子の遺稿が見つかった。鏡の国には、削除されたエピソードがあるらしい。削除されたパートは実在するのか、響子はそのシーンをなぜ削除したのか。その答えが明かされた時、驚愕の真実が浮かび上がる。

『リカバリー・カバヒコ』 青山美智子著

新築分譲マンション、アドヴァンス・ヒル。近くの日の出公園にある古びたカバの遊具・カバヒコには、自分の治したい部分と同じ部分を触ると回復するという都市伝説がある。人呼んで、“リカバリー・カバヒコ”。



2023 第4回 映画鑑賞会 in 最上校

「月の満ち欠け」

佐藤正午著

主演：大泉洋・有村架純



あたしは、月のように死んで、生まれ変わる。目の前にいる、この七歳の娘が、いまは亡き我が子だというのか？ 三人の男と一人の少女の、三十余年におよぶ人生、その過ぎし日々が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく。この数奇なる愛の軌跡よ！ 新たな代表作の誕生は、円熟の境に達した畢竟の書き下ろし。さまよえる魂の物語は戦慄と落涙、衝撃のラストへ。

期 日：11月15日（水）

時 間：午後3時50分～

場 所：PC室



※参加希望者は 11月13日(月)まで、各クラスの申込用紙に氏名を記入すること。

2023 年発刊オススの新刊！



『トワイライイト』 畑野智美著

森谷末明はある日、思い切って、本屋「twililight」に入ったことから、末明の生活は変わっていく。友達と出会い、夜の街を歩き、初めてのお酒を飲む。そして、恋をする。twililight の屋上から眺める夕暮れに染まる三軒茶屋、末明は何を探し、何を見つけるのか。きっと誰もが、この物語の中にいる。

『イット・エンズ・ウィズ・アス ふたりで終わらせる』 コリーン・フーヴァー著

フラワーショップを開業したばかりのリリーと、脳神経外科医のライルは、情熱的な恋に落ち結婚。仕事もプライベートも充実した毎日だったが、ライルには幼い頃のトラウマがあることが発覚。最後まで心を揺さぶりつづけ、全米の女性をとりこにした恋愛小説！

『マイ・リトル・ヒーロー』 冲方丁著

息子の凛一郎が交通事故に遭い、意識不明に。意識不明の息子からゲーム内に届いたメッセージ。息子を救うため、父はeスポーツの世界大会を目指す。オンラインゲームを通して、父と息子の絆と成長を描き、繋がっていく、新しい家族の物語。

『切願』 長岡弘樹著

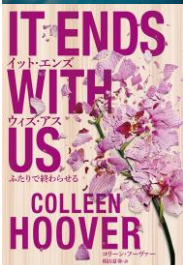
短編ミステリーの名手による巧妙な伏線、予想外の結末、ピターな人間ドラマを存分に堪能できる、ザ・ベスト・オブ・長岡ミステリー！

『ぼんぼん彩句』 宮部みゆき著

俳句と小説の新しい出会い。17音の奥に潜む繊細で彩り豊かな12の物語。「俳句」という僅か17音で作られた世界の奥にはどんな物語が潜んでいるのか。

『物語の種』 有川ひろ著

読者から物語の種となるようなお題を送ってもらい、それを小説に仕上げるという斬新なスタイルで書かれた全十篇が収録されています。



『街とその不確かな壁』 村上春樹著

十七歳と十六歳の夏の夕暮れ、川面を風が静かに吹き抜けていく。彼女の細い指は、私の指に何かをこっそり語りかける。何か大事な、言葉にはできないことを？高い壁と望楼、図書館の暗闇、古い夢、そしてきみの面影。自分の居場所はいったいどこにあるのだろう。

『くもをさがす』 西加奈子著

カナダでの闘病中に抱いた病、治療への恐怖と絶望、家族や友人たちへの溢れる思いと、時折訪れる幸福と歓喜の瞬間。切なく、時に可笑しい、あなたに向けて綴られた、誰もが心を揺さぶられる傑作です。

『オール・ノット』 柚木麻子著

友達もいない、恋人もいない、将来の希望なんてもっとない。貧困にあえぐ苦学生の実央が出会ったのは、かつて栄華を誇った山戸家の生き残り、四葉。彼女に託された一つの宝石箱が、実央の人生を変える。

『私雨邸の殺人に関する各人の視点』 渡邊優著

嵐の私雨邸に取り残された11人の男女。資産家のオーナーは密室で刺殺され、世にも珍しい〈探偵不在〉のクロード・サークルが始まる。館に集ったのは怪しい人物ばかり。いったい誰が犯人を当てるのか。各人の視点からなされる推理の先に、思わぬ悲劇が待っている。

『カンヴァスの恋人たち』 一色さゆり著

碧波市の美術館に勤める学芸員の貴山史絵は、80歳の女性画家、ヨシダカヲルの展覧会を担当することになる。ヨシダは美術業界から一線を退いたあと、なぜ表舞台から消えてしまったのか。ふたたび絵を描き始めるまでの空白の10年間に何があったのか。ふたりが心を通わせたとき、ヨシダが語るのは、秘められた愛についてだった。

『白薔記』 佐藤零著

この人と一緒に、歩いて生きたい。大坂の蘭学塾「適塾」を営む名高い医学者、緒方洪庵の妻となった八重。洪庵と八重は、人々が痼疾に苦しむことのない世をつくるため、適塾で学ぶ志士たちと共に新医術「牛痘種痘」を広めようとする。だが、それは長く困難な闘いの始まりだった。多くの人材を育て、近代医学の礎を築いた夫婦のひたむきな愛と絆を描く感動の歴史小説。

